



## 『早稲田大学所沢校地B地区湿地 環境管理方針』

【平成 14 年 5 月 15 日】

早稲田大学

早稲田大学所沢校地B地区に現存する湿地は、狭山丘陵において最大規模を有し貴重な動植物が認められる、保全上の重要性が高い自然環境となっている。しかしながら、水田耕作の放棄等の要因にともない乾燥化が年々進み、水生動植物等の減少も見られる。こうした背景を受け、環境・健康・福祉等の分野を対象とした研究機関の建設を所沢校地B地区で進めるに際し、早稲田大学は以下の方針に基づき、湿地の重要性を損なわないための環境管理に取り組んでいくものとする。

1. これまでの調査・研究により、伝統的な水田耕作が適度に行われていた 1970 年代までは、湿地全域が涵養され生物多様性の高い機能が認められていたことから、湿地の維持・管理目標を「湿地全域の涵養再生と湿地との結びつきが顕著な指標動植物の安定的な生息・生育」に置き、効果的な管理方策の検討・実施を行う。
2. 水路の河床低下に伴う水の集中が乾燥化を促している側面が強いため、かつての水田形態を参考に土堰堤（畦構造）の設置等による水位調節を図り、環境管理の労力の軽減が可能となる仕組みを検討する。
3. 湿地の維持・管理は、構造的な対応のみでは限界があることや、環境管理作業は環境学習や自然とのふれあいを図る上でも効果的であることから、学内のみならず市民参加による湿地の環境管理の体制づくりに取り組む。この場合、「緑の森博物館」が湿地の周囲を取り巻く形で位置しており、一体的な環境管理が求められることから、埼玉県とも協議を進め総合的な推進体制づくりの実現に努める。

※「平成 14 年度第 1 回早稲田大学所沢校地B地区自然環境評価委員会」平成 14 年 5 月 15 日にて策定



## 『早稲田大学所沢校地B地区回復緑地 植栽管理方針』

【平成 14 年 5 月 15 日】

早稲田大学

早稲田大学所沢校地B地区は、全域が「県立狭山自然公園」内に位置する、豊かな自然環境に恵まれた地域に立地している。早稲田大学は、今後B地区において環境・健康・福祉等の分野を対象とした研究機関の建設を進めるに際し、自然環境との十分な調和を図るために、以下の方針に基づく「回復緑地」の植栽計画の検討・実施に取り組んでいくものとする。

1. 造成区域内の建造物建設箇所以外は、極力緑地の復元・再生を図るための「回復緑地」として位置づける。回復緑地は、その位置や機能から「法面植栽」「修景植栽」「低木植栽」に区分し、植栽内容の検討を行う。
2. 植栽種の検討に際しては、景観や生態系との調和を図るべき点や管理を可能な限り軽減する観点から園芸種や外来種は除き、周囲の狭山丘陵で普通に見られ、自然環境に馴染んだ在来種・郷土種を用いることを原則とする。また、造成に伴い影響を受ける昆虫の食樹や野鳥の餌となる実のなる木等、開発の影響を低減・代償するための対策との整合にも十分考慮し、植栽内容の検討を図る。
3. 「修景植栽」や「法面植栽」については、狭山丘陵の樹林地をモデルに、高木・亜高木・低木等の多層構造の緑地とするための植栽手法の検討を行う。また、可能な限り早期に緑地の再生と安定を図るための効果的な植栽手法と、遺伝子汚染を考慮した種苗等の確保、薬剤使用や過度の人為的管理を行わなくてもすむ緑地管理方策等の検討を行う。

※「平成 14 年度第 1 回早稲田大学所沢校地B地区自然環境評価委員会」平成 14 年 5 月 15 日にて策定